

日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話(03)3751-7181

平成27年10月13日
第52号

【日蓮本宗本山要法寺近況報告】 日蓮本宗管長・本山要法寺貫首 座替式・晋山式奉修



晋山式奉告文を奏する日遠猥下

日蓮本宗は久遠実成本師釈迦牟尼仏より本化上行菩薩高祖日蓮大聖人、日興上人、日目上人、御開山日尊上人と受け継がれ、以来歴代の先師が血脈次第により本山貫首として法灯を継紹し今日に至っている。



要法寺座替式

この度、日蓮本宗本山要法寺では、嘉儀日有上人猥下が御退隠になり、新しく丹治日遠上人猥下が就任され、座替式・晋山式が奉修された。僧侶・檀信徒五百人の参拝者が見守るなか、まず晋山庭儀式が行われ、日遠上人を中心に大行列を組み山内を練り歩いた。そして日遠上人は薬医門より本堂へ入堂、「嗣

式が奉修された。平成二十五年十月十三日、高祖日蓮大聖人第七百三十二年御報恩御正法要に併せ、座替式を奉修。本堂御宝前に於いて、嗣法第五十一祖日有上人より日遠上人へ「叙大僧正」「認証本山要法寺貫首」「推戴日蓮本宗管長」の辞令が親授された。つづいて、日遠上人が猥座に登壇し、ここに嗣法第五十二祖日遠上人猥下に法灯が継紹された。座替式終了後、日有上人の御退隠慰勞会が催され、僧侶檀信徒多数出席し御功勞に感謝、和やかな慰勞会となった。日有上人は二十六年間の長きにわたり、宗・山の護持運営に尽力され、その間、本堂大屋根修復、客殿法寶殿新築などを達成され、その功績は甚大である。

続いて平成二十六年五月八日、御開山日尊上人の御生誕七百五十年慶讃大法要と併修して、嗣法第五十二祖日遠上人晋山式が奉修された。僧侶・檀信徒五百人の参拝者が見守るなか、まず晋山庭儀式が行われ、日遠上人を中心に大行列を組み山内を練り歩いた。そして日遠上人は薬医門より本堂へ入堂、「嗣

法第五十二祖日遠上人晋山式」が開式となった。晋山式法要では各末寺の檀信徒総代による献花・献灯の後、日遠上人猥下が

御宝前にて晋山の「奉告文」を奏上された。本堂内は多くの参拝者で満員となり、開山堂・客殿に準備された大スクリーンに映し出される中継映像を見て法要の様子を見られるかたも多数おられた。晋山式に続いて、御開山日尊上人御生誕七百五十年慶讃大法要が奉修され、日遠上人猥下が慶讃文を奏上された。結びに、



晋山式庭儀式の様子

日遠上人猥下が親しくご挨拶を述べられ、充実感に満ちた法要を成満した。大法要終了後、会場を京都口イヤルホテル&スパに移して晋山祝賀会が開催された。御来賓の大本山妙蓮寺貫首松下日肆上人猥下、大本山法華本門寺根源

貫首旭日重上人猥下より祝辞を賜り、日遠上人猥下が御挨拶を述べられた。祝賀会は二百四十人の御臨席のもと盛会裡に進行し、一連の行事式典を無事成満することができた。

法華宗 (陣門流) 管長就任挨拶



総本山本成寺貫首
門谷日悠

このたび法華宗(陣門流)管長に就任した門谷日悠でございます。去る六月二十一日に執り行われた入山式に於いて、本成寺八十九世の法灯を継承いたしました。

ち、世の中が変わり、昔から代々お檀家として踏襲されてきた方々がおられる反面、一方で少子高齢化が進み、人との絆が細り、ご先祖を敬う心が薄れがちになるなど、我々を取り巻く環境も大きく変化してきました。時代に合わせた寺院経営の在り方を求める声もあります。そうした中、私が今般の入山式において改めて強く念ったことは、日蓮聖人の立教開宗の本義に基づき、古来の伝統と時勢の進展とに即応した活動をしてまいりますこと、これが大切、肝心なことでございます。

顧みれば、私が初めて住職辞令を受けたのは昭和五十年のことです。京都本禪寺の塔頭でした。そのころ、門連では日蓮聖人七百年御遠忌報恩事業として「日蓮聖人劇」「日蓮聖人展」「オラトリオ日蓮聖人」「青年の船」などが計画されておりました。京都日蓮聖人門下連合会でも、定例の「御降誕会」「立教開宗会」「夏季大学」「御会式」「門下青年会の「講習会」「研修旅行」などを行いなから御遠忌記念事業に取り組んでいました。が、私はその中に身を置いていただけで大きな感慨を覚えたものでした。

しかし、それから三十数年経

從地ゆじゅつ

◆近年、どの宗派教団においても、いわゆる信者・教師の高齢化や後継者不足の声を耳にするようになった。寺檀制度の名残で、葬儀と先祖供養を通じてなんと一般社会とのつながりを保っていたが、直葬・自然葬が脚光を浴び始め、それも心細くなっている。

◆宗教離れと言っても、もちろん現代人の悩みが解消されたわけではない。相変わらず自殺者は多いし、医療の進歩によって生れた延命治療に対する葛藤も話題になるなど、生死の不安もほとんどの人が持っている。本来、人を救う教えであるはずの宗教が頼りだされているのだ。◆国柱会を創始した田中智学師は、「先づ宗教家即ち坊さんだが、その職務は何だといふと、大体葬式をすることが唯一の職務になって居る。要するに葬式屋として見て居る。人の感情風俗からいって、人の死ぬといふことは一番嫌ふので、目出度いことに葬式のことを混入することは甚だ困る。職務がさういふ不吉を意味して居る職務だとならば、除外されることも当然なわけだ。これは一往無理からぬやうな事態であるけれども、要するに宗教を理解しないところから来たもので、宗教が安心立命の大切なものであるとすれば、その人の一生を通じて信仰する宗教は、即ち自分の存在の第一義でなければならぬ。即ち生命でなければならぬ。兎も角も死人をいじっているのが仏教の本領ではない。活きた社会をより以上活かして行くといふことが宗教」と考え、宗教結婚式や入営式、頂経式などを制定し、活きた社会をより以上に活かして行くこととした。後に続く我々も宗教の本義に立ち返り、一般社会の宗教意識を高めていく方法を追究していかなくてはならない。(真)

《各派のページ》第八回 「本門法華宗門内外で活躍する僧侶」



山口市・本園寺住職
本門法華宗学院講師
山口学芸大学教育学部長・教授

香川智弘さん

(プロフィール)

昭和三十二年(一九四七)山口県生まれ、東京大学法学部卒。山口市本園寺住職。宗内では宗会議員、学院講師、傍ら山口学芸大学教育学部長をはじめ亀山幼稚園長、山口県警察学校や山口シテイカレッジなどの講師、県市の各種委員会・審議会の会長・委員を歴任する。

四方に恵まれた幸せ

大覚大僧正を開基とし、文和年間創立の寺の長男として生を受け、幼い頃より総代さんから「お前は六百年の歴史の中で寺に初めて生まれた子だから絶対に寺を継がなければならぬ」と言われ続けました。また、寺を再興せんと精励格闘している両親の姿を目の当たりにして育つ中で、自然と寺を継がねばならないという気持ちになりました。こうして学業を終えて、山口の地に戻って今年ちょうど四十年になります。父(日明)は本堂・庫裏等伽藍の再建に心血を注ぎましたが、私が四十歳の時に遷化します。母(日慈大法尼)は、日夜、檀信徒の教化に精励し、檀信徒の数を倍増させ、私が六十歳の時に遷化しました。ありがたいことも、ハード・ソフト

ト両面にわたる両親の遺産、とりわけ母親が年月かけて教化した極めて信仰心篤い多くの檀信徒によって、多種の仕事も兼ねながらも今日まで住職の職務を遂行することができました。

た別の方から遺言だからと計数千万円を託されました。目下、総丈約四メートルの上行菩薩の銅像と同規模の観世音菩薩の石像の今の建立を進めております。寺檀和合がよくはかれるのが団参です。今年身延山・池上にお参りしました。毎年、参加者が五十人を下回ったことはありません。他方、檀信徒にあつては、毎年、数件、家屋新築のための地鎮祭・上棟式にお参りします。法華経を誦誦しお題目を唱えてご先祖を供養し寺に奉仕して功德を積めば各家は栄えます。そして寺も、誠にありがたいことです。

平和な社会に暮らす幸せ

こうして住職を二十八年、その傍ら大学教員を三十八年、幼稚園園長を三十二年、警察学校講師を十四年、山口県共同募金会評議員を十年、また宗会議員二十数年、と現在十年以上継続している仕事を並べてみました。同様に過去に、山口県選挙管理委員会委



右 檀信徒ホール二階祖師堂にお祀りしている宗祖 門祖の木像大座像。下)平成二十三年に建立した門祖日蓮聖人銅像

いろいろな人と出会い、多くのことを学ぶことができました。ところで私は学生や公務員・市民などに主に憲法を講義しています。法華経も憲法も仏法と俗法の違いがありますが、それぞれの最高法です。日蓮聖人は立正安国をめざして法華経を弘通せんと為政者に敢然と立ち向かわれましたが、今憲法をないがしろにする為政者に不安を感じます。権力者も憲法に従うという立憲主義が民主国家の大原則です。もちろん憲法

は国民とともに存在するものですから、国民の同意を得て憲法を改正することができません。しかし、それをしないで、憲法を無視する政治が許されてはなりません。私は戦後の生まれで、今日まで戦争のない社会に生きることができました。これは最高の幸せといえます。この幸せが子や孫の代まで永続しなければなりません。過去の過ちを繰り返すことにならないよう国民一人ひとり政治に関心をもちねばなりません。



日蓮聖人銅像

東日本大震災 現地慰霊練行

当山は本門法華宗のなかで唯一東京に席を置く寺院です。平成二十三年三月十一日、東日本大震災は何の前触れもなく、突然起こりました。私は、たまたま大本山妙蓮寺で開催されていた宗会に出席していました。電話も携帯も繋がらない状態です。ただテレビの画面に映る被害の状況を見る以外になす術はありませんでした。地震の大きさよりも引き続き襲ってきた津波の巨大さに息もつかない程の衝撃を受けました。当日は東京も大パニックで、

公共交通機関は全て機能せず、ほとんどの人が徒歩で何時間もかけて自宅に戻るか、職場に泊まるしかない有様でした。幸い、当山は佛具が倒れる程度の被害ですみました。その年の秋、ある法要の席で当宗の若い僧侶たちから、「東日本大震災に対して僧侶として何ができるか?」「何かしなくてはならない」と問われました。当宗の僧侶たちは、阪神・淡路大震災を経験しています。救援のボランティア活動から始まり、その後、現地慰霊練行を毎年続けています。

若い僧侶たちの一言で「東日本大震災 現地慰霊練行」が決



慰霊練行

まりました。当山は、故あって、壊滅的な被害を受けた岩手県陸前高田市のボランティアセンターに六月から十月まで、専従役員を派遣しました。仕事の内容は、全国の労働組合から一週間交代で来るボランティアの皆さんの毎日の仕事の割り当てと、各地域への送り迎えの作業です。その時の縁を頼

りに数度にわたり現地を訪れ、現地での受け入れ態勢を作りました。日程を一周忌直前に当たる平成二十四年三月五日(月)〜九日(金)の四泊五日としました。ほとんどの参加者が京都以西の方で、初日と最終日は移動日になりますので、中三日での現地慰霊練行となります。大船渡市碓石海岸「海菜荘」を拠点に、一日目は大船渡市赤崎「千葉家」での大法要に始まり、大船渡市尾崎峰、門の浜、陸前高田市小友町での回向、練行を行いました。二日目は、大槌町城山公園、市役所跡、釜石市鶴住居根浜海岸「宝来館」で回向、練行、御題目流しを行い、三日目は、陸前高田市市役所跡、高田高校跡、市設の慰霊所、泉増寺などでの回向練行を行いました。また、平成二十七年には、宮城県気仙沼市も新たに加わりました。僧侶十ヶ寺、在家八人、事務局五人の約二十人が、毎年参加してくれています。ありがたいことに、一周忌、四回忌法要では、大本山妙蓮寺貫首松下日肆猊下が大導師を勤めてくださいました。平成二十八年は、二月二十九日(月)〜三月四日(金)の予定です。どなたでも参加できます。一報をお待ちします。電話03-3342-6733 浄風寺

別所日山さん

(プロフィール)

べっしょ につさん 昭和十六年二月二十七日生まれ。東京学芸大学初等科卒。東京都文京区で生まれ、新宿区で育つ。本門法華宗宗会議員、大本山妙蓮寺末寺総代、日蓮聖人門下連合会監事、東京都佛教連合会理事、日本中国国際教育交流協会幹事、東京都政治教育連盟会長。



本門法華宗大徳山浄風寺住職

日蓮宗宗務院

宗務総長 小林順光 財務部長 中川法政
 伝道局長 齊藤憲一 宗務総長室長 小林正雄
 総務局長 塩崎望巳 現代宗務研究所長 三原正資
 伝道部長 吉田見悠 参 与 山口裕光
 教務部長 田中文教 参 与 吉田海心
 総務部長 風間随修 日蓮宗新聞社長 草ヶ谷秀人

〒146 8544 東京都大田区池上一―三二―一五
 電話 〇三(三七五)七七八一
 FAX 〇三(三七五)七七八六
<http://www.nichiren.or.jp>

法華宗(本門流)宗務院

管 長 石田日信
 宗務総長 二瓶海照
 総務部長 金井孝顕
 布教部長 久永晃顕
 教学部長 三吉廣顕
 財務部長 清水常光
 企画部長 山田庸温

〒103 0013 東京都中央区日本橋人形町二―一九―一
 電話 〇三(五六一)三〇五五
 FAX 〇三(五六一)三〇五六

顕本法華宗宗務院

管 長 山本日恵
 宗務総長 島田幸晴
 宗務次長 秋葉敬真
 財務部長 湯原純勇
 庶務部長 津村乗信
 社会部長 藤本智成
 布教部長 小松正学
 教務部長 湯原正純

〒606 0015 京都市左京区岩倉幡枝町九一
 電話 〇七五(七九二)七二七一
 FAX 〇七五(七九二)七二六七

法華宗(陣門流)宗務院

管 長 門谷日悠
 宗務総長 佐古弘文
 総務部長 牧野秀成
 教学部長 布施義高
 教化部長 松吉慶憲
 財務部長 金原孝宜
 企画部長 今井満良

〒170 0002 東京都豊島区巣鴨五―三五―六
 電話 〇三(三九一)七二九〇
 FAX 〇三(三五七)〇二二一

本門佛立宗宗務本庁

宗務総長 木村日覚
 宗務副総長 西村日要
 宗務副総長 植松常二郎
 教務局長 亀井日魁
 弘通局長 植田日事
 総務局長 藤本日唱
 広報局長 澤田日松
 財務局長 西村日勲
 奉賛局長 藤本日涌

〒602 8377 京都市上京区御前通二条上多東堅町二―〇番地
 電話 〇七五(四六一)一六六(代)
 FAX 〇七五(四六四)五五九九

日蓮本宗宗務院

管 長 丹治日遠
 宗務総長 加藤法夫
 総務部長 原光明
 財務部長 住友公亮
 教務部長 工藤海淳

〒606 8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ノ法皇寺町四四八
 電話 〇七五(七七二)三三九〇
 FAX 〇七五(七七二)五九一四

法華宗(真門流)宗務庁

管 長 田仲日紘
 宗務総長 堀智泰
 総務部長 木村完祥
 教学部長 堀内浩善
 教化部長 加藤順昭
 財務部長 上田泰源
 社会部長 峰尾泉栄

〒602 8447 京都市上京区智恵光院通り五辻上ノ紋屋町三三〇
 電話 〇七五(四四一)五七六二
 FAX 〇七五(四四一)五六六六

本門法華宗宗務院

管 長 松下日肆
 宗務総長 藤井日靖
 宗務部長 増田日雄
 総務部長 吉村日彦
 財務部長 土畑信教
 教務部長 山田岳隆
 庶務部長 高邊晶啓

〒602 8418 京都市上京区寺之内通大宮東入大本山妙蓮寺内
 電話 〇七五(四五二)三二二七
 FAX 〇七五(四五二)三五九七

宗教法人 国柱会

賽 主 田中壮谷
 理事長 原田義彦
 門連理事 森山真治
 門連常任理事 藤本坦孝
 門連理事 的場春奈
 編集委員 (門連系外)

〒132 0024 東京都江戸川区一之江六一―一九―一八
 電話 〇三(三五六)七二二(代)
 FAX 〇三(三五六)九九八〇
<http://www.kokuchukai.or.jp>

京都日蓮聖人門下連合会

会 長 伊丹日章
 副会長 山本日恵
 理事長 橋本一妙
 副理事長 吉永義康

京門連事務局
 〒606 8376 京都市左京区二条通川端東入大菊町九六
 頂妙寺布教会館内 日蓮宗京都府第一部宗務所内
 電話 〇七五(七六二)二四一一
 FAX 〇七五(七五二)九三三八

日本山妙法寺大僧伽

首 座 吉田行典
 責任役員 酒井天信
 同 今井行康
 同 池田行朗
 同 二宮和嘉
 同 木津博充
 同 川岸行孝

日本山妙法寺大僧伽事務局
 〒150 0045 東京都渋谷区神泉町八一七
 電話 〇三(三四六)九三六三
 FAX 〇三(三四六)九三六七

大阪日蓮聖人門下懇話会

理事長 佐藤哲夫 理事 福島正堯
 副理事長 佐野貫順 理事 木村完祥
 理事・会計 松井英光 理事 渋谷正龍
 理事 門谷光瑞 理事 吉永義康
 理事 藤本経尚 理事 村木光男
 理事 笹川行恒

〒530 0051 大阪府大阪市北区太融寺町六一―十二
 円頓寺内
 電話 〇六(六三六)七六六四
 FAX 〇六(六三六)七六六四

日蓮宗総本山 **身延山久遠寺**

〒409 2593 山梨県南巨摩郡身延町身延三五六七
電話 〇五五六(六二)一〇一一
FAX 〇五五六(六二)一〇九四

法主 内野 日総
総務 井上 瑞雄

法華宗(陣門流)総本山 **本成寺**

〒955 0845 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六(三三)〇〇〇八
FAX 〇二五六(三三)〇〇五九

貫首 門谷 日悠
執事 笹原 壯玄
執事 近藤 正義
執事 五十嵐 昭文
執事 西山 明仁
執事 真保 行達
執事 田邊 正明

本門佛立宗本山 **宥清寺**

〒602 8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町二〇〇五十一
電話 〇七五(四六三)四六二〇(代)
FAX 〇七五(四六三)四六五一

住職 山内 日開
二十五世講有
執事 小野 山日住
事務局長 奥 順作

宗祖御降誕靈場 日蓮宗大本山 **誕生寺**

宗祖御降誕八百年に向かつての祈り

〒299 5501 千葉県鴨川市小湊一八三
電話 〇四(七〇九五)二六二一
FAX 〇四(七〇九五)二〇五五

貫首 石川 日命
執事 長 矢嶋 泰淳

日蓮門下お題目初唱之靈場 日蓮宗本山東身延 **藻原寺**

〒166 0013 東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話 〇三(三三三)六二四一
FAX 〇三(三三三)五〇〇七

貫首 持田 日勇
総務 増田 寶泉
執事 富永 一道
執事 中川 貫泰

日蓮宗大本山 **池上本門寺**

〒146 8576 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三(三七五)一三三三一
FAX 〇三(三七五)三三三〇

貫首 菅野 日彰
執事 金子 元彦
役員 一同

法華宗(真門流)総本山 **本隆寺**

〒602 8447 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六

貫主 田仲 日紘
執事 本多 信正
執事 永岡 悠希
執事 足立 真正
執事 笹木 研吾

京都 **八本山会**

会本・本山 本満寺 貫首 伊丹 日章
大本山 本園寺 貫首 伊藤 日慈
大本山 妙顯寺 貫首 三田村 日正
本山 立本寺 貫首 上田 日瑞
本山 妙傳寺 貫首 野々垣 日祐
本山 頂妙寺 貫首 安藤 日瑛
本山 妙覺寺 貫首 及川 日周
本山 本法寺 貫首 瀨川 日照

日興上人御聖廟 日蓮宗大本山 **富士山法華本門寺根源**

〒248 0007 鎌倉市大町一―一―一五一一
電話 〇四六七(二三)〇七七七
FAX 〇四六七(二五)六九六七

貫首 旭 日重
執事 川名 義顕
執事 吉田 日綱
参与 井野上 正文

徳川家康公報恩創建 日蓮宗由緒寺院 除厄安産飯匙の祖師・七面大明神奉安 **瑞輪寺**

〒110 0001 東京都台東区谷中四―二―一五
電話 〇三(三八二)四三三七
FAX 〇三(三八二)七〇三三

貫首 井上 日修
執事 稲荷 泰雅

法華宗(本門流)大本山 **本興寺**

〒606 0862 兵庫県尼崎市開明町三一―一―三
電話 〇六(六四一)三三二七
FAX 〇六(六四一)二四三八

貫首 小西 日遠
執事 齋藤 舜駘
役員 一同

本門法華宗大本山 **妙蓮寺**

〒602 8418 京都市上京区寺ノ内通天宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五(四五二)三五二七
FAX 〇七五(四五二)三五九七

貫首 松下 日肆
執事 音羽 隆全
役員 一同

京都 **法華門流懇話会**

法華宗(真門流) 総本山本隆寺 貫主 田仲 日紘
頭本法華宗 総本山妙満寺 貫首 山本 日恵
本門法華宗 大本山妙蓮寺 貫首 松下 日肆
法華宗(本門流) 大本山本結寺 貫首 菅原 日桑
本門佛立宗 本山宥清寺 講有 山内 日開
日蓮宗 本山要法寺 貫首 丹治 日遠
法華宗(陣門流) 本山本禅寺 貫首 福井 日進
頭本法華宗 本山寂光寺 貫首 大川 日仰

日蓮宗大本山 **中山法華経寺**

日蓮宗大本山

〒418 0112 静岡県富士宮市北山四九六五
電話 〇五四四(五八)一〇〇四
FAX 〇五四四(五九)〇三〇三

貫首 新井 日湛
参与 田代 浩敬
参与 植田 観樹
参与 吉田 文堯
参与 与田 中貞奨

頭本法華宗総本山 **妙満寺**

〒606 0015 京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九二)七二七一
FAX 〇七五(七九二)七二六七

貫首 山本 日恵
総務 吉永 義康
執事 中村 英司
執事 湯原 正純
執事 土持 悠孝

多寶富士山 日蓮宗 **本山要法寺**

〒606 8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七二)三三九〇
FAX 〇七五(七七二)五九一四

貫首 丹治 日遠
執事 加藤 法夫
執事 原 光明
執事 住友 公亮
執事 藤海 淳

日蓮宗大本山 **清澄寺**

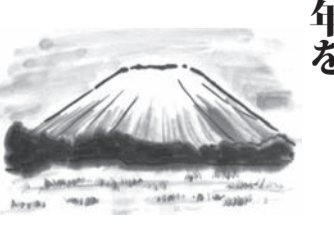
日蓮聖人出家得度の霊場

〒299 5505 千葉県鴨川市清澄三二二―一―一
電話 〇四(七〇九四)〇五二五
FAX 〇四(七〇九四)〇五二七

別当 二宮 日敬
執事 宮崎 雅宣
役員 一同

日蓮宗大本山 **平成一十三年二月十六日は 宗祖御降誕八百年を迎えます**

迎えます



門連時報

祖廟参詣及び身延理事会 開催さる

平成二十七年五月二十九日(金)、日蓮宗総本山身延山久遠寺で、「日蓮聖人門下連合会祖廟参詣・身延理事会」が開催され、全国日蓮聖人門下連合会顧問・常任理事・理事・監査・大阪門下懇話会理事長など二十六名が参列した。

午前十一時半、御廟法務所に集合し、祖廟にて法味言上及び記念撮影。続き、報恩閣へ移動し、午後二時より理事会が開催された。

小林順光理事長が座長となり、議題に沿って議事を進行。「平成二十六年度事業報告」「平成二十六年度決算報告」について事務局



身延理事会 於身延山久遠寺
平成二十七年五月二十九日

より報告。決算報告では別所日山師より監査会で精査されたことが告げられ、一同承認。次に、「平成二十七年年度事業計画案」「平成二十七年年度予算案」を事務局より報告、一同承認。続き、「京都門下連合会活動報告」を橋本一妙京都門下連合会理事長より、「地方門連活動に関する報告」を原光承大阪門下懇話会理事長より報告された。「その他」の事項では、平成三十三年に迎える日蓮聖人御降誕八百年について、機関紙編集委員会において議論されている企画案の報告がなされ、引き続き機関紙編集委員会にて議論を行い、今後より詳細に話を詰めていくこととなった。

午後三時に閉会。会場を下部ホテルに移し、午後六時より各派教団による懇親会が開催された。

【書籍紹介】

相澤宏明著

『日蓮王法思想への誘ひ』
展転社・定価二一六〇円(税込)

高校を中退して鎌倉の私塾に飛び込み、田中智学・山川智広・里見岸雄らを師とした著者の半世紀にわたる日蓮教学・宗学の集大成。中世思想史に転換を迫る刮目の書である。

【書籍紹介】

『シリーズ日蓮』

全五巻(春秋社)
定価、一巻二七八〇円、二巻五一八四円、三、五巻四三二〇円(すべて税込)

京都日蓮聖人門下連合会 事業開催

京門連総会・宗祖御降誕会

京都日蓮聖人門下連合会では二月十六日(月)日蓮宗本山妙傳寺を会場に平成二十七年年度総会ならびに宗祖御降誕会を奉行了。厳しい冬も過ぎ、春間近と思える好日に役員、会員約五十名の参加を得、まず総会を開会した。総会では、新年度役員紹介があり、引き続き議案の審議に入った。昨年度当番の法華宗真門流より会務行事報告、決算報告等があり、次に今年度当番の日蓮宗宗務所、顕本法華宗より会務行事予定、会計予算案等の報告があり承認された。特に顕本法華宗より京門連加盟の寺院名簿作成要望があり今秋発行することが承認された(責任者・顕本法華宗湯原正純師、日蓮宗永岡龍明師)。

会場を本堂に移し、顕本法華宗総本山妙満寺貫首山本日恵猊下より「大次各巻を出版してきた春秋社刊『シリーズ日蓮』。本年六月に最終巻である第五巻が出版され、全巻の出版が完了した。

本書は、斯界を牽引する小松邦彰、西山茂、上杉清文、末木文美士、花野充道の五名を責任編集者とし、今日までの日蓮研究の集大成を図ると共に、今後の課題を提示して、日蓮思想の現代化を目指したシリーズ。

各巻では、法華経の成立とその根本思想の展開(第一巻)、日蓮の生涯、並びにその思想の源流と展開(第二巻)、日蓮教団の形成と展開(第三巻)、また、近代化の様相と社会的分析(第四巻)、現代の諸問題に回答する日蓮思想の「いま」(第五巻)が論じられる。

各巻各項目の執筆は、責任編集者をはじめ、現在、その分野を代表する国内外の諸研究者が担当。日蓮研究の専門家のみならず、日蓮門下全僧侶にとつての必読書。

昨年五月に第一巻を刊行し、逐次各巻を出版してきた春秋社刊『シリーズ日蓮』。本年六月に最終巻である第五巻が出版され、全巻の出版が完了した。

本書は、斯界を牽引する小松邦彰、西山茂、上杉清文、末木文美士、花野充道の五名を責任編集者とし、今日までの日蓮研究の集大成を図ると共に、今後の課題を提示して、日蓮思想の現代化を目指したシリーズ。

各巻では、法華経の成立とその根本思想の展開(第一巻)、日蓮の生涯、並びにその思想の源流と展開(第二巻)、日蓮教団の形成と展開(第三巻)、また、近代化の様相と社会的分析(第四巻)、現代の諸問題に回答する日蓮思想の「いま」(第五巻)が論じられる。

各巻各項目の執筆は、責任編集者をはじめ、現在、その分野を代表する国内外の諸研究者が担当。日蓮研究の専門家のみならず、日蓮門下全僧侶にとつての必読書。



聖人御降誕の頃の世相」の講演があり、次に妙傳寺貫首野々垣日祐猊下大導師のもと宗祖御降誕会法要を厳かに奉行了。僧俗約八十名が宗祖日蓮聖人の御報恩の誠を御宝前に誓った。法要後は、関西身延と呼ばれる由縁の妙傳寺様の御真骨堂を参拝し、一同感激を新たにされた。

祖十二年御遊学御研鑽なされた華芳谷定光院へ登詣した。まず顕本法華宗本山寂光寺執事長大川孝瑛上人より法話があり、次に日蓮宗本山妙満寺貫首山本日恵猊下(今年度京門連会長)大導師、正副理事長協導師、門下本山各貫首猊下御臨席のもと御降誕会法要を厳修した。法要後は世界遺産の金閣寺へ参観し帰路へついた。

大阪日蓮聖人門下懇話会 新理事長就任と総会の開催

四月二十四日に新理事長に日蓮本宗・本成寺の原光承副理事長が就任される。六月四日に第二十八回総会がホテルアウイナに於いて開催され、多くの会員の出席をみる。始めに原新理事長導師のもと法味言上、後、原理事長による「要法寺 日尊上人について」の講演が行われた。続いて案件に入り、平成二十六年事業・会計報告並びに二十七年事業計画が承認される。その後、懇親会に移り、会員相互の親睦が深められた。

七月四日、原理事長五大不調の為にご遷化、大阪門懇の更なる発展にご尽力頂ける矢先の訃報です。原理事長のご遷化に伴い、七月二十三日日蓮本宗・円頓寺の佐藤哲夫師が新理事長に就任される。

立教開宗会

四月二十八日(火)比叡山横川定光院に於いて立教開宗会を執り行った。素晴らしい晴天のもと、静寂聖域の雰囲気をかもしだす宗

『シリーズ日蓮』購読のご希望は春秋社(T-01-1002) 東京都千代田区外神田二一八八一 TEL03-3133-5519 一六 FAX03-3133-5511 一三八四)まで。

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平成二七・七・四	原光承	大阪門下懇話会	理事長	就任	退任
平成二七・三・一七	朝倉俊幸 島田幸晴	顕本法華宗	常任理事	就任	退任
平成二七・三・一七	吉永義康 秋葉敬真	顕本法華宗	理事	就任	退任
平成二七・四・二五	東孝信 原光承	大阪門下懇話会	理事長	就任	退任
平成二七・七・四	原光承 佐藤哲夫	大阪門下懇話会	理事長	就任	退任

ご家族と共に子孫に伝える信仰の証

日蓮宗全国五十七箇本山 御朱印めぐりセット

日蓮宗の本山五十七箇寺を巡り五十七紙の貫首さまの御首題に御朱印を拝受し巡る生涯忘れ得ぬ感動の旅を



監修 日蓮宗全国本山会

【セット内容】(箱入り)
57本山貫首さまの御首題 57紙+白紙3枚 計60枚
御首題携行帳 3帳(予備2帳)
参拝案内カード 57種(最新地図・交通情報)
手引書 1冊
※参拝のワンポイント・団参コース等の案内

頒価 2,160円(税込・送料別)

全国日蓮宗本山会監修

日蓮宗 本山 御朱印めぐり

頒価 3,240円
【税込・送料別】

「全国五十七本山めぐり」完全対応・必携の書。

日蓮宗五十七本山の伝記と歴史の旅案内。幾星霜、信仰を支えてきた縁に映える伽藍の偉容、日蓮聖人とお弟子たちの歴史への旅案内。

各派・教団・短信

本門法華宗

◆三月十六日、第百四回本門法華宗宗会が大本山妙蓮寺卯木講堂において開催。

◆四月十二日、大本山妙蓮寺(松下日肆貫首)において春季大法要を奉修。

◆本門法華宗学院(渡辺日恩学院長)第百五十二回教学講習会を三月二十七・八日、第百五十三回同講習会を六月十五・六日、卯木講堂にて開催。

◆布教誌『生きる』第六十四号、情報『信行』第百八十三号を七月一日に発行。(吉村光敬)

国柱会

◆一月一日、元旦天国禱。新年拝賀式。神酒拝戴式。賽主先生以下有志明治神宮参拝。

◆七日、昭和天皇祭。若杉日出雄講師以下中央有志武蔵野御陵参拝。

◆十一月、近畿地方連合会局新年会に原田義彦理事長出席。森山真治理事随席。

◆十七日、恩師忌。常勤給仕日。各局輪番常勤給仕(十九日迄)。

◆十八日、妙宗大靈廟例月供養会。中央同志新年大会開催。

◆二十一日、昭和の日ネットワー「昭和の日をお祝いする集い」打ち合わせ会(於、神社本庁)開催。森山講師補出席。

◆二月一日、月旦天国禱。

◆八日、大橋邦正講師(元門連常任理事)国柱会葬ならびに妙宗大靈廟納鎮式厳修。式後、先生を偲ぶ会開催。

◆十一日、紀元節慶讃法要。

◆十二日、三原じゅん子参議院議員を応援する会に、的場春奈職員出席。

◆十四日～十五日、妙宗大靈廟各局輪番常勤給仕。

◆十五日、釈尊涅槃会報恩大法要並びに妙宗大靈廟例月供養会。

◆十六日、日蓮聖人降誕会慶讃大法要。大西英男衆議院議員を応援する会に、森山真治理事出席。

◆十七日、恩師忌。常勤給仕日。

◆二十日、日本会議事務局野崎様ご来園。賽主先生とご面談。

◆二十一日、本部にて日蓮主義講習会開催。(記 森山真治)

◆一月二十六日(月)理事会・新年会(本能寺文化会館)。

◆二月十六日(月)総会(日蓮宗本山妙蓮寺)。

◆同日 宗祖御降誕会 導師 野々垣日祐院下、講師 山本日恵院下。

◆三月九日(月)理事会(日蓮宗京都府第一宗務所)。

◆四月二十八日(火)立教開宗会(横川定光院 導師 伊丹日章院下、講師 大川孝瑛上人。法要後、金閣寺参観)。

◆五月二十九日(金)身理理事会参加者・山本日恵院下、松下日肆院下、橋本一妙上人、中村英司上人。

◆六月十五日(月)理事会(日蓮宗京都府第一宗務所)。

◆八月二十九日(土)第五十一回夏季大学(本能寺文化会館)講師 日蓮宗大本山本因寺貫首伊藤日慈院下、日蓮宗最然寺住職清瀬一智上人、フリージャーナリスト西谷文和氏。

◆十二月十八日(金)理事会・忘年会(本能寺文化会館)。

◆十二月二十四日(木)会計監査(日蓮宗京都府第一宗務所)。

◆次年度表当番 本門法華宗大本山妙蓮寺、裏当番日蓮宗京都府第一宗務所。(橋本一妙)

◆日蓮宗は七十回目の終戦記念日を迎えた八月十五日、東京・千代田区の千鳥ヶ淵戦没者墓苑で「千鳥ヶ淵戦没者追善供養並世界立正平和祈願法要」を営んだ。今回は七十年の節目にあたり大導師に内野日総日蓮宗管長院下をお迎えし、副導師には東京四管区の宗務所長、式衆には同四管区の声明師会、修法師会員の各聖が務めた。

◆法要後には四管区の青年僧を中心として、式衆には同四管区の声明師会、修法師会員の各聖が務めた。

◆法要後には四管区の青年僧を中心として、式衆には同四管区の声明師会、修法師会員の各聖が務めた。

◆法要後には四管区の青年僧を中心として、式衆には同四管区の声明師会、修法師会員の各聖が務めた。

◆法要後には四管区の青年僧を中心として、式衆には同四管区の声明師会、修法師会員の各聖が務めた。

◆法要後には四管区の青年僧を中心として、式衆には同四管区の声明師会、修法師会員の各聖が務めた。

◆法要後には四管区の青年僧を中心として、式衆には同四管区の声明師会、修法師会員の各聖が務めた。

◆法要後には四管区の青年僧を中心として、式衆には同四管区の声明師会、修法師会員の各聖が務めた。

◆法要後には四管区の青年僧を中心として、式衆には同四管区の声明師会、修法師会員の各聖が務めた。

◆法要後には四管区の青年僧を中心として、式衆には同四管区の声明師会、修法師会員の各聖が務めた。

◆五月十九～二十一日、第六十九次宗会開催。

◆五月二十七～二十八日、平成二十七年宗務所長会開催。

◆六月三日、大本山本興寺内建設の『信行勸学院』(興隆学林生の宿舍併設)上棟式が奉修(尼崎市)。

◆九月二十九日、『信行勸学院』落成讃法要を奉修(尼崎市)。

◆十二月五日、当宗に縁のある方々へ「良縁成就」の場を積極的に協力応援し、良き出会いの場を提供すべくENKAI(縁会)の第二回を神戸市内で開催予定。

◆僧侶の布教技術の攻究を目指す、布教法式研修会の日程と内容は次の通り。

◆九月七～八日、於・法華宗宗務院。

◆十一月十～十一日、於・大本山本能寺。

◆僧侶の資質向上、興学・布教の活性化を目指す、教学講習会の本日程は次の通り。

◆七月二十八～三十日) 九州(七月二十八～三十日)

◆北海道(八月二十五～二十七日)

◆北陸(九月二十七～二十九日)

◆淡路(十月五～七日)

◆千葉(十月七～九日)

◆宮村光明)

◆二月二十八日、千葉県木更津市本立寺において、御開山日什大正師第六百二十四遠忌開山法要が厳修された。法要後、会津古城研究会会長・石田明夫氏による講義が行われた。

◆五月十三日、千葉県大網白里市芳墳寺において、東部教区連合会主催による先師報恩法要が厳修された。法要後、平成二十七年度定期総会が開催された。

◆五月十六日・十七日の二日間にわたり、京都総本山妙満寺において、春季報恩大法要が厳修された。山本日恵院下大導師のもと、例年の趣旨に加え、各座において終戦七十周年戦没者慰霊法要と東日本大震災物故者慰霊法要が奉修された。また、島田幸晴宗務総長導師のもと「安珍清姫の鐘」鐘供養が奉修された。鐘供養後、OSK日本歌劇団・高世麻央氏による奉納舞踊が行われた。

◆七月二十七日～三十日の三泊四日にわたり、総本山妙満寺において、「第五十一回・顕本青少年錬成会」を開催、六十八名の小中学生が参加した。

◆八月二十五日～九月八日の十五日間にわたり、総本山妙満寺において、平成二十七年年度妙塔学林(本科・研修科)を開催。

◆五月二十二日～二十四日の三日間、総本山本成寺にて石丸日然院下導師により「祠堂大法要」が厳修され、全国より多くの檀信徒が参詣した。最終日二十四日の法要終了後には、日然院下の退山式が執り行われ、平成二十三年四月より四年間の任期を満了された。

◆五月二十八日、会計監査会が宗務院にて開催された。

◆六月十五日、布教研究所委員会が宗務院にて開催された。

◆六月二十一日、総本山本成寺新貫首・八十九世門谷日悠院下の入山式が執り行われた。式には全国より宗門寺院住職・教師・檀信徒が集い、また日蓮聖人門下連合会・法華宗(本門流)・顕本法華宗・本門法華宗・法華宗(真門流)より来賓をお迎えし、賑やかにご入山を祝った。

◆七月五日、雅楽練習会が宗務院で開催された。

◆七月三十日、宗法審議委員会が宗務院にて開催された。

◆三月三日・四日の両日、総本山妙満寺において、第七十定期宗会が開催された。平成二十六年度宗務事業報告及び決算、平成二十七年年度事業計画及び予算案が承認された。任期満了により、朝倉俊幸前宗務総長より島田幸晴現宗務総長が就任し、新内局を発足した。新内局人事：管長山本日恵院下・島田幸晴宗務総長・秋葉敬真宗務

◆四月七日、宗務所長会が宗務院にて開催された。

◆五月七日、宗研所報編集会議が宗務院にて開催された。

◆五月十二日、霊跡別院蓮着寺(静岡県伊東市)にて「伊豆法難会」が、中野日仁山主導師により厳修された。本堂での法要に引き続き、畑岩を間近に臨む奥の院にて法要が営まれた。

◆五月十三日～六月二十一日までの四十日間、「法華宗学林」が総本山本成寺にて開講された。今年も全国より多くの寺院徒が集まった。学林生達は毎日教学研究・練経・浄行等に励み、行学二道に精進した。

◆五月二十二日～二十四日の三日間、総本山本成寺にて石丸日然院下導師により「祠堂大法要」が厳修され、全国より多くの檀信徒が参詣した。最終日二十四日の法要終了後には、日然院下の退山式が執り行われ、平成二十三年四月より四年間の任期を満了された。

◆四月八日～十五日、本隆寺に於いて、春季学林開講。

◆四月十一日～十三日、本隆寺に於いて、春季大法会厳修。

◆五月二十一日、ホテル日航姫路に於いて第三教区教学研修会開催。

◆五月二十七日～二十八日、本隆寺に於いて、研修会開催。

◆五月二十八日、本隆寺に於いて、真門教学講習会開催。

◆六月二日～六日、函館・妙見寺に於いて、布教師養成所(岡真行所長)開所。

◆八月一日～三日、本隆寺に於いて、暁天講座開催。

◆八月十六日、本隆寺に於いて、五箇盆施餓鬼法要奉修。

◆八月二十二日～二十八日、本隆寺に於いて、夏期講習会開催。(森田量哲)

◆四月八日～十五日、本隆寺に於いて、春季学林開講。

◆四月十一日～十三日、本隆寺に於いて、春季大法会厳修。

◆五月二十一日、ホテル日航姫路に於いて第三教区教学研修会開催。

◆五月二十七日～二十八日、本隆寺に於いて、研修会開催。

◆五月二十八日、本隆寺に於いて、真門教学講習会開催。

◆六月二日～六日、函館・妙見寺に於いて、布教師養成所(岡真行所長)開所。

◆八月一日～三日、本隆寺に於いて、暁天講座開催。

◆四月八日～十五日、本隆寺に於いて、春季学林開講。

◆四月十一日～十三日、本隆寺に於いて、春季大法会厳修。

◆五月二十一日、ホテル日航姫路に於いて第三教区教学研修会開催。

◆五月二十七日～二十八日、本隆寺に於いて、研修会開催。

◆五月二十八日、本隆寺に於いて、真門教学講習会開催。

◆六月二日～六日、函館・妙見寺に於いて、布教師養成所(岡真行所長)開所。

◆八月一日～三日、本隆寺に於いて、暁天講座開催。

◆八月十六日、本隆寺に於いて、五箇盆施餓鬼法要奉修。

◆八月二十二日～二十八日、本隆寺に於いて、夏期講習会開催。(森田量哲)

◆四月八日～十五日、本隆寺に於いて、春季学林開講。

◆四月十一日～十三日、本隆寺に於いて、春季大法会厳修。

◆五月二十一日、ホテル日航姫路に於いて第三教区教学研修会開催。

◆五月二十七日～二十八日、本隆寺に於いて、研修会開催。

◆五月二十八日、本隆寺に於いて、真門教学講習会開催。

◆六月二日～六日、函館・妙見寺に於いて、布教師養成所(岡真行所長)開所。

◆八月一日～三日、本隆寺に於いて、暁天講座開催。

日蓮聖人門下連合会

- 目的
本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡協力、団結を強化することを目的とする。
●事業
本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。
1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

- 加盟団体
日蓮宗 法華宗本門流
顕本法華宗 法華宗陣門流
本門佛立宗 日蓮本宗
法華宗真門流 本門法華宗
国柱会 日本山妙法寺
京都門下連合会